

平成23年度

ライフサイエンスイノベーション推進機構セミナー 第370回 学内セミナー(大学院セミナー)

日時：平成24年1月27日(金)18:30~19:30

会場：研究棟3階会議室(松岡キャンパス)

演者：武田 宏司 先生

北海道大学薬学研究院臨床病態解析学・消化器内科 教授

演題：「明らかになる漢方薬のエビデンス
- 六君子湯の食欲改善作用を例として -」

最近、漢方薬の臨床効果や作用機序に関するエビデンスが蓄積しつつあり、臨床現場での期待が高まっている。私たちは、機能性ディスペプシアに対して使用される代表的な漢方方剤であり、食欲改善作用を有する六君子湯に着目し、その作用について小動物を用いた研究を行ってきた。今回の講演では、シスプラチン投与による食欲不振モデル、新奇環境変化による食欲不振モデルおよび加齢による食欲不振モデルの病態と六君子湯の効果について、最近の成果を報告する。ラットへのシスプラチン投与は、5-HT_{2B} および 5-HT_{2C} 受容体の活性化を介してグレリン分泌および摂食量を減少させた (Takeda H, Gastroenterology 2008)。高齢マウスでは、血漿レプチンが高値を示し、血漿グレリンは摂食、絶食による生理的変動が障害されていた (Takeda H, Endocrinology 2010)。新奇環境変化では、視床下部における 5-HT 受容体 mRNA の増加が認められ、5-HT_{2C} 受容体拮抗薬により食欲が改善した (Saegusa Y, Am J Physiol 2011)。六君子湯およびその成分は、消化管 5-HT_{2B} 受容体、視床下部 5-HT_{2C} 受容体、PDE3 の阻害効果を有し、これらの食欲不振モデルに有効であることが確認された。さらに、六君子湯はアシルグレリン分解酵素を阻害する事により、アシル/デスアシルグレリン比を増加させることも明らかとなった (Sadakane C, Biochem Biophys Res Commun 2011)。現在、ヒトでの有効性を明らかにするため、複数の臨床研究が進行中である。

本学内セミナーは大学院セミナーも兼ねていますので、大学院1・2年生は是非出席して下さい。
(必修科目「医学研究総論」「医科学特論」「先端応用医学概論」の出席回数にカウントされます)。
また、学内の研究者間の交流をはかることも目的としていますので、多数の御来聴をお願い致します。



主催：福井大学ライフサイエンスイノベーション推進機構
(生命科学複合研究教育センター・トランスレーショナルリサーチ推進センター・ライフサイエンス支援センター)
担当教員：医学部医学科生命情報医科学講座薬理学領域・教授
ライフサイエンスイノベーション推進機構長 村松 郁延
担当者：総合戦略部門研究推進課学内共同教育研究施設等 田口、中川(内線2059)